

17号池物語



魚住まちづくり協議会

目次

17号池物語

17号池の土手に立って

魚住小学校のシンボル くすのき 楠 ようせい の妖精 くすのん 登場

17号池はなぜつくられたのか

どのようにしてつくられたのか

17号池をさかのぼる

めっこうさん
雌岡山に向かって

おい くちぶんすいしょ 老ノ口分水所、雌岡山の ちようじょう 頂上へ

さんちよう
雌岡山の山頂に立って

17号池にもどる

これからの17号池

解説

- 17号池の歴史と未来
- 山田川疏水・岩岡支線の全容（地図）
- 淡河川・山田川疏水の年表と魚住小学校のあゆみ
- 17号池の変遷

17号池の土手に立って

魚住小学校4年生の 良平くん 哲平くん 輝子さん の3人が
17号池の土手で話しているよ、どうしたのかな？

「17号池って大きいね！」

「明石で5番目に大きいため池らしいよ」

「ぼくのお父さんは子どものころ、体育の授業で、この土手を何周もしたと
言っていたよ」

「私のおじいさんは、魚をいっぱい釣ったそうよ」

「でもさー、いつごろ、なんのために17号池はつくられたのかな？」

「そうね、だいたい17号池という名前も不思議だよ」

「なん号池まであるんだろうね」

「わからないことがいっぱい出てきたけど。。。」

「だれに聞いたらわかるかな？」



魚住小学校のシンボル ^{くすのき} 楠 ^{ようせい} の妖精 くすのん 登場

びゅーん！わっ！なにかが現れた！

「うわぁ！なに！？君はだれ！？」

「びっくりさせて ごめんね！ 100年ほど前から、この魚住小学校に住んでいる妖精で“くすのん” っていうんだ」

「び、びっくりしたぁ！」

「君たち、さっきから17号池がいつごろ、なんのためにつくられたか、って話し合っていたらろう」

「うん、うん！」 「そうだよ」

「それでね、^{おし}教えてあげようと思って飛んできたんだよー」

「へーほんと！？」 「ほんとに！？」

「ありがとう！！」



17号池はなぜつくられたのか

妖精 くすのん 17号池の歴史を語り始めたよ。

「実はこの17号池ができて今年で100年になるんだ！

ぼくが生まれたのはそのもう少し前だけどね」

「へー100年前！」

「そのころって、この魚住小学校のまわりのようすはどうだったの？」

「100年前、魚住小学校のまわりは、今みたいに田んぼじゃなくて、

一面、畑でダイズやムギ、タバコを作っていたんだ。昔から、このあたりのお百姓ひゃくしょうさんは、水にこまくろっていて、『水がほしい、ほしい』といって水に苦くろ勞うしていたんだ」

「水がたりなかったんだね」

「ところが、明治時代めいじじだいになって新しい世の中になり、外国から技術ぎじゆつや人が入り、遠くから水を引くことができるようになったんだ」

「遠くから？」

「最初にできたのが、『淡おうごかわ河川そすい疏水』で、神戸市北区の淡おうごかわ河川から水を取り入れ、途中700mもある御坂みさかの谷をサイフォンで水を通して、稲美町や加古川の方に水を引いたんだ。この疏水が完成して、畑を田んぼに変えることができ、やっとお米が作れるようになったんだよ」

「ふーん」「なるほど」



地図 淡河川疏水と山田川疏水

「そのあと、この魚住でも何とかならないかということになり、今度は神戸市北区の山田川から水を引く計画（江戸時代から計画されていたそうだけど）ができ、今から 100 年前に完成したのが『山田川疏水』なんだ。ほら、魚住東中学校の南の宗賢神社の横に『疏水記念碑』という石碑が建っているだろう、知っているかな？」



「知ってる、知ってる」「看板もあったよ！」

「また、しっかりと読んでおいてね！」

この『山田川疏水』がつくられた時に、その水を貯める池もたくさんつくられたんだ。その一つが 17 号池だよ」

「そうだったんだ！」

「でも、なんで 17 号池なんだろう？なんの番号なのかな？」

「よくわからないんだ、でも上から順番に番号をつけたほうが分かりやすい

ような気がするよね」

「そうだね！」

「でも、ほんとうに順番になっているのかな？」

「あとから確かめようよ」

「そうだね」「そうしよう！」



どのようにしてつくられたのか

妖精 くすのん の話は続くよ。

「なぜ つくられたかは、だいたいわかったけど、今みたいにきかい機械がなかったのに、
どのようにしてつくったの？ くすのん！教えて！」

「よくはわかんないんだけど、16号池をつくった時に青年だった人の話だと、
地元の人たちがそしき組織（しゅつどうだん出働団）をつくり、力を出し合って水路やため池をつく
っていったそうだよ。特に、ため池づくりでは、一日に1立坪（約1.8m立方）
くらいの割合で、『つばめのつちも土持ち』といって土でつち堤防（ていぼう）をつくりかた固めていったそ
うだ。

それでも1年以上もかかったんだって。

でも、『水がほしい』という長年の願いを込めて頑張ったそうだよ」



17号池をさかのぼる

17号池から1号池まで歩いてみるよ。

「ところでさあ、17号池のことはよくわかったんだけど、本当に、ほかの池にも番号がついているか、確かめに行こうよ」

「よし、そうしよう」「私も^{がんば}頑張る！」

「くすのんもいっしょに行こうよ」

「どうしようかな？」

「いっしょに行こうよ」「しょうがないなあ……」

3人とくすのんは17号池を出発して16号池、15号池へと歩き出したよ。

「あれっ！16号池や15号池なんか、ないよ！」

「くすのん、どうなっているの？」

「実はね、16号池も15号池も、もうないんだ。16号池は、埋め立てられて、今は魚住東中学校や明石商業高校になっているんだ。15号池も住宅地になっているんだよ」

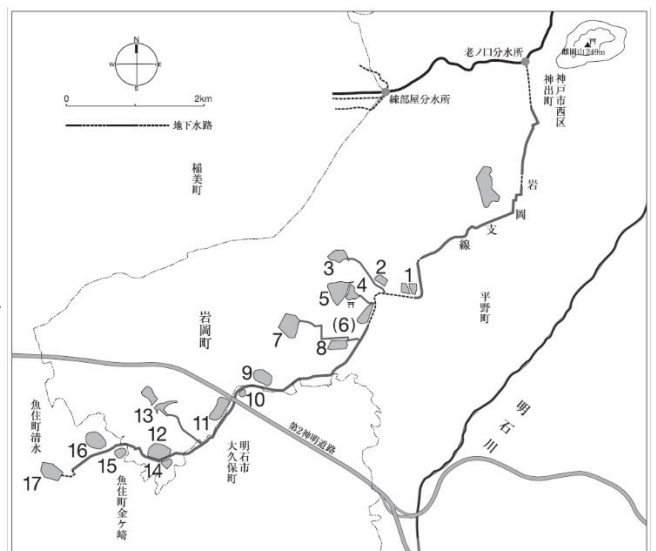
「どうして？」

「この魚住地域も、50年ほど前からどんどん人口が増えてきて、学校や家が足りなくなってきたからなんだ。明石市内で新しく出来た高校や小中学校は、ため池を埋め立ててつくられた学校が多いんだよ」

「へーそうなんだ！」

「知らなかったなあ！」

「そういえば、錦が丘小学校も元はため池だったと、おばあちゃんが言ってたよ！」



山田川疏水・岩岡支線

明石市内でも高いところにある14号池に来たよ。元15号池を過ぎ、田んぼが広がる道を北へ行くと、両側にため池の土手が見えてくる。西側が12号池(神戸市)、東側が14号池(明石市)だよ。

「ずいぶん高いところまで来たね！」

「明石市内でも高いところにあるため池なんだ！ここを通っている水路は、山田川疏水の岩岡支線いわおかしせんと言うんだ。13号池は、少しはなれたところにあって、11号池は今のカーナートが11号上池、その下が11号下池だったんだよ」

「さあ、水路が高速道路を渡るよ！」

「うわあー、水路橋だ！」

「道路の上を水が走っているんだね！」

「ゴルフの打ちっぱなしの網が見えてきたよ」

「ここが元の10号池だよ」



11号池(手前高丘西小学校)
昭和51年頃



第2神明道路を渡る水路橋



元10号池

雌岡山に向かって

今では、住宅になっている9号池を過ぎ、8号池、7号池、そして、ここから少し坂を上ると高い土手のあるポンプ池(6号池)があり、西の高くなったところに岩岡神社いわおかしんじやがあるよ。

「なんでポンプ池というの？ くすのん」
「くわしくは知らないけれど、ポンプを使って一段高い池に水を入れたからかな」
「すいぶん広くて大きな池だね。」
「あっ、ポンプがあるよ、それも二つも！
古いのと新しいのと」
「くすのん、向うに神社が見えるよ」
「岩岡神社いわおかしんじやって言うんだ。昔、この神社で雨乞いあまごをして、雨あめが降ふってほしいと祈いのったそうだよ」



神社の近くには、4号池と5号池があるよ。そして、2号池、3号池が北側にあり、ポンプ池から1号池まで、地下水路になっているよ。

「やっと、1号池までやってきたね！」
「やっぱり、17号池から番号順に1号池まであったんだね！」
「すごいね！でも、くたびれたよー」



1号池

おい くち ぶんすいしょ ちょうじょう
老ノ口分水所、雌岡山の頂上へ

1号池から老ノ口分水所をめざすよ。途中、サイフォンを見つけたよ。

「これなに？」 「水路の口から水が出ているよ」
「谷になっているよ」
『サイフォン』といって水を谷や川の下を越えさせるための装置なんだ。17号池に水が入るところにも、道路の下を通っている小さなサイフォンがあるよ。
今度、よーく見ておいてね」



サイフォンの出口

雌岡山のふもとまできたよ

「ねえねえ、また、変な装置があるよ、くすのん！」
「これは、「分水工」というんだ。水を分けるための装置で、よーく見てね！
ここから水が分かれ17号池まで行っているんだ。神戸市の岩岡を通過している
ので岩岡支線といわれているよ。上流の淡河川や山田川からやってきた水がこの
付近の池でいっしょになり、ここで岩岡支線と合流幹線に分かれるんだ。
このあと印南支線・森安支線・天満支線・加古支線などに枝分かれするんだよ」

「ちょっと、この分水で一休みしようよ」
「そうだね、まだ雌岡山に登らなくちゃね！」
「くすのんも休もうよ！」
「わかったよ、休むよ」



雌岡山の山頂に立って

雌岡山に登り、山頂に着いたよ。南には淡路島や明石海峡大橋や神戸の山々が見え、足元には、大きなため池が点在して見えるね。一方、西の方は木々で見晴らしはよくないが、上空からだ「いなみ野台地」に広がる多くのため池を見ることができるとは。北は、小束野の田畑や集落を見ることができ、素晴らしい景色だよ。

「やったー！山頂だ！」

「すごいね、くすのん、見て、見て」

「淡路島でしょ、明石海峡も見えるよ」

「明石川や伊川谷なんかも見えるよ」

「でも、いなみ野台地のため池はずっと西の方だから見えないね」

「私、神戸空港へ降りる時に飛行機の中から見たけど、すごかったよ！」

ため池だらけだったよ」

「僕も見たいよ、空中写真でね！」



ここから、山田川疏水はまだまだ続き、三木や神戸市北区山田町の衝原を通り、取り入れ口だった坂本まで続くよ。途中、何ヶ所かのトンネル(隧道)を通り、その工事も非常に大変だったそうだよ。

17号池にもどる

帰りは、とても疲れていた^{つか}ので、3人は妖精くすのんに^の乗せてもらって、空から山田川
疏水岩岡支線をたどって17号池までもどることにしたよ。

「くすのん、ぼくたち、もう疲れちゃった。帰りはくすのんに乗っけてくれない
かな？」

「お願いー！」（3人でたのむ）

「しかたないなあ！それなら、しっかりと枝につかまってよ。じゃあ、行くよー。
空からのながめもよく見てね！」



いざ、17号池に向かって出発！

「ほんとだ、西の方は、ため池だらけだよ」

「あっ、岩岡神社^{いわおかじんじや}の林が見える」

「4号池や5号池も見えるよ」

「水路が、高速道路を越えるよ」

「あっ、17号池が見えたよ！」



13号下池・上池・カナート
12号池・14号池（手前）

これからの17号池

くすのんと3人は、工事が進んでいる17号池の前にもどってきたよ。

「くすのん、ありがとう。帰りはとっても楽だった」

「ほんと、助かったわ」

「ところで、いま、工事が進められているけど、17号池はこれからどうなっていくのだろう？」

「ぼくのお父さんの話では、3分の1はため池として残され、あとの3分の2は緑のグラウンドやみんなの広場になるそうだよ」

「へー、3分の1の水で米が作れるんだね」

「どんどん家が建ち、田んぼが少なくなってきたから、ため池はこれくらいで十分だと言っていたよ」

「お百姓さんのためのため池から、町全体の人たちのため池へと変わっていくんだね！」

「役所の人の説明だと、大雨が降った時はグラウンドに水を貯めて洪水を防ぐ役目もするそうだよ」

「ため池の役割もいろいろあるんだね！」



「みんな～、そろそろ^{かえ}帰るね！」

「今日は、くすのん、ありがとう！お^{はなし}話^{あんない}や案内のおかげですいぶん、17号池
ことがわかったよ！」

「ぼくたちも、これからの17号池をずーっと見ていくけど、くすのんも^{みまも}見守っ
ていてね」

「もちろん！！今までも、そして、これからもずーっと魚住小学校から^{みまも}見守って
いくよ！」

「じゃあーね！」

「ありがとう！」

「ばいば～い」



Continue to the future...

～解説～

17号池の歴史と未来

JR 魚住駅から北東へ 15 分ほど歩くと国道2号線があります。道路の向こうに高く長く続く土手が目に入ってきます。それがこの物語のテーマである 17 号池です。良平くんたちのように、その土手の上にあがってみてください(1 ページ)。そこには大きな大きな水を貯める器(池)がひろがっています。そして北にある魚住小学校の校庭には、“くすのん”(2 ページに登場)でもある樹齢 100 年をこえるクスノキも見えます。

なぜ 17 号という名前なのでしょう？くすのんといっしょに、17 号池の歴史や私たちの地域について、学びましょう。

1. 17 号池について
2. 「いなみ野台地」とため池について
3. 山田川疏水と淡河川疏水について
4. 山田川疏水の開発とため池について
5. サイフォンと水力発電について
6. ため池の機能と 17 号池の未来について

1. 17号池について

17号池は明石市魚住町にあります。ため池をぐるっと囲んでいる土手は堤防ていぼうといひます。堤防の高さていこう（堤高）は平均で4.9メートルあります。そしてその長さていちょう（堤長）は1026.0メートルです。哲平くんのお父さんは何メートル走ったのでしょうか（1ページ）。また器一杯になった時の面積まんすい（満水面積）は67,340平方メートルであり、そこに貯められる水の量ちよすいりょう（貯水量）は96,000トンにもなります。

17号池の堤防を縁に見立てるとお皿のような形になります。このような池を「皿池」といひます。また谷や川を堰き止めてつくったため池も多くあります。それらのため池は「谷池」といひます。大久保町の釜谷池が谷池です。皆さんの近くのため池は、皿池？それとも谷池？どちらですか。



図1 17号池



図2 釜谷池

表1 17号池（皿池）と釜谷池（谷池）の比較

	17号池	釜谷池
堤高 (m)	4.9	6.0
堤長 (m)	1026.0	425.0
貯水量 (m ³)	96,000	153,800
満水面積 (m ²)	67,340	64,960

2. 「いなみ野台地」とため池について

「いなみ野台地」は、西は加古川、北に美^{みの}囊川、東が明石川、そして南を播^{はりまなだ}磨灘に囲まれた台地です。図3が示すように、いなみ野台地には多くのため池が分布しています。いなみ野台地には兵庫県でもっとも古い記録が残る天満大池があります(図6)。天満大池がつくられたのは、古代で、奈良に平城京がつけられた年よりもっと前です。また兵庫県で一番大きなため池もいなみ野台地にあります。それは近世(江戸時代)につくられた加古大池です。いなみ野台地のため池は、この時代に多くつくられました。いなみ野台地のため池の歴史からみると、17号池は比較的新しいため池で、近代(大正時代)につくられました。

どうして、この地域にはため池が多いのでしょうか?図3、4、5をみて、地形や気候、そして地域の農業から考えてみましょう。

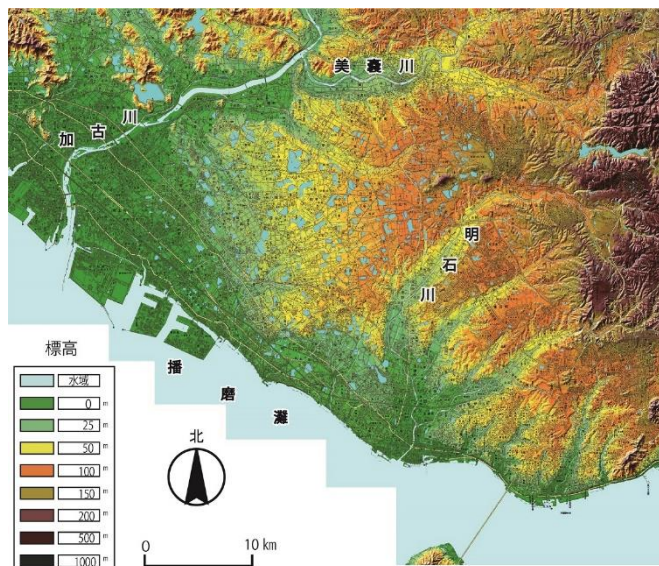


図3 いなみ野台地とため池

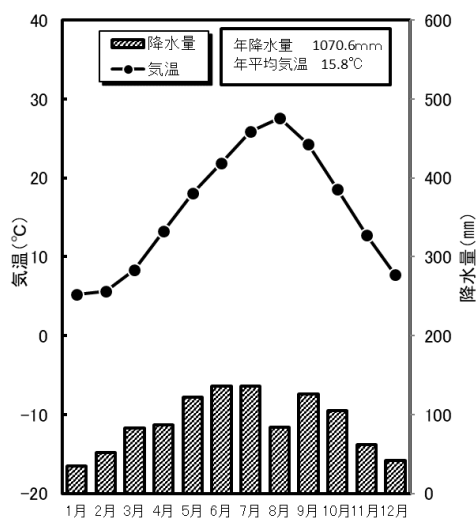


図4 明石の気候

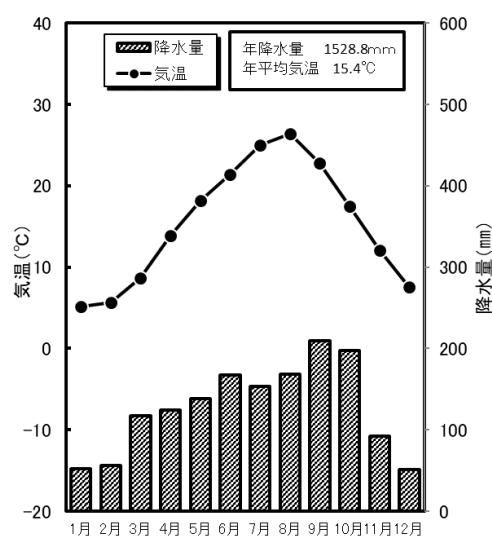


図5 東京の気候

3. 山田川疏水と淡河川疏水について

ここでは17号池の水源である山田川^{そすい}疏水の歴史について紹介したいと思います。疏水とは、かんがい・給水・舟運・発電などのために切り開いた水路のことで、用水と表現される場合もあります（たとえば、愛知県の明治用水）。

表2の年表を見てください。山田川を水源とする疏水の開発の試みは古く、約250年も前の江戸時代にさかのぼります。江戸時代からの開発では一貫して、山田川を水源とする計画が進められてきました。それが一転して、1887（明治20）年に淡河川を水源とする計画に変更され、先に淡河川^{たんがわ}疏水が1891（明治24）年に完成しました。その後、再び山田川を水源とする計画が立てられ、1919（大正8）年に山田川疏水が完成したのです。そして淡河川疏水と山田川疏水は一体的に運用がなされるようになり、地元ではこの2つの疏水を一つにして「淡山^{たんざん}疏水」と呼んできました。

さて水は高いところから低いところに向かって流れます。いなみ野台地に水を運ぶには、台地より高いところから水を引かなければなりません。そのため淡河川では木津（河口から約40.6キロ上流、標高は約140m地点）、山田川では坂本（同約39.4キロ上流、約150m地点）で取水しています（図6）。もちろんそれぞれの川の水は、沿岸^{えんがわ}や下流の村で古くから使われていました。新しく疏水をつくるからといって、川の水を取ることを容易には認めてくれません。そこで淡河川疏水と山田川疏水では、お米を作らない時期（非かんがい期）の水を取ることにして、沿岸^{りょうがわ}や下流の村の了解^{りょうかい}を得ることができたのです。もちろん水を使うのはお米を作る時期です。そこで川から引いた水をため池にいったん貯めて、そしてお米を作る時期に使うことで解決したのです。山田川疏水の^{じつげん}実現には「非かんがい期の水の利用」と「河川とため池をつなぐ」という^{ちえ}智慧があったのです。山田川疏水の水利権は非かんがい期の10月1日から翌年5月31日に設定され、そして40を超えるため池が新設または増築^{ぞうちく}されました。

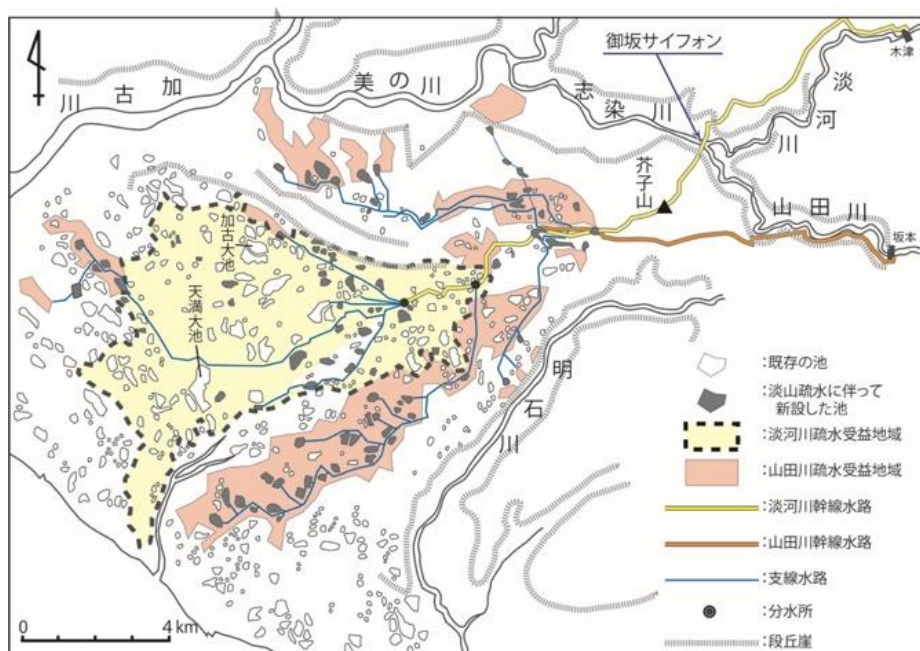


図6 淡河川疏水と山田川疏水の開発

西暦（和暦）	できごと	西暦（和暦）	できごと
1771 （明和8）年	播磨国明石郡東村（現在の神戸市神出町東）の某が摂津国山田川から「いなみ野台地」への引水の利あることを発見。測量を行った。	1890 （明治23）年	加古郡母里村外4ヶ村普通水利組合が設立した。
1826 （文政9）年	国岡新村（現在の稲美町国岡）の福田嘉左衛門らが山田川から練部屋に至る測量線の測量を行った。	1891 （明治24）年	淡河川疏水が完成する。
1868 （慶応3）年	[神戸開港] 神出東村現在の神戸市神出町東）の藤本増右衛門が山田川からの取水路の測量を行った。	1892 （明治25）年	豪雨により用水路が不通になり、復旧工事を行った。
1872 （明治5）年	加古郡野寺村（現在の加古郡稲美町野寺）の魚住完治らが藤本増右衛門の協力で測量に着手した。	1894 （明治27）年	復旧工事が完了し、疏水が全通した。
1873 （明治6）年	ほぼ現在の兵庫県 の 県域が確定する。	1906 （明治39）年	疏水水源拡張計画を諮問する。
1878 （明治11）年	魚住完治は有志と共に新流掘割之義願を兵庫県令（現在の県知事）に提出した。	1908 （明治41）年	組織を変更し、兵庫県淡河川山田川普通水利組合に改称した。
1886 （明治19）年	疏水工事を県に請願し、許可される。	1911 （明治44）年	山田川疏水建設工事に着工する。
1887 （明治20）年	現地調査の結果、水源を淡河川に変更することを水利士功会で決議する。	1915 （大正4）年	山田川疏水幹線工事が竣工した。
1888 （明治21）年	淡河川疏水の工事に着工する。パーマー技師の助言で、軟鉄管をイギリスから輸入し御坂サイフォンに用いる。	1919 （大正8）年	山田川疏水支線および溜池が完成し、山田川疏水が完成する。

表2 淡河川疏水と山田川疏水の開発史（年表）

4. 山田川疏水の開発とため池について

「非かんがい期の水の利用」と「河川とため池をつなぐ」という地域の智慧を活かした山田川疏水では、非かんがい期の河川の水を貯めるために多くのため池がつくられました。山田川疏水と淡河川疏水の水は廣野（広野）で合流します。そして、くすのんたちが訪れた老ノ口分水所（9ページ）で岩岡支線に分水され、17号池に水が送られます。図7の岩岡支線をたどってみてください。上流から順に一号池、二号池とあります。図中には六号池がありませんね。実は、ポンプ池が六号池です。そして岩岡支線の一番最後にあるのが十七号池（17号池）です。

山田川疏水の開発にあたっては膨大なお金がかかりました。そのため地元では銀行から多額のお金を借りて対応することになりました。その際、「出働団」という組織をつくって、ため池の工事で働くとともに、その資金の1/10を銀行に預金することを条件とされました。疏水とため池が完成してから、約30年にわたって、その借金を返し続け、1951（昭和26）年にすべての借金を返済しています。

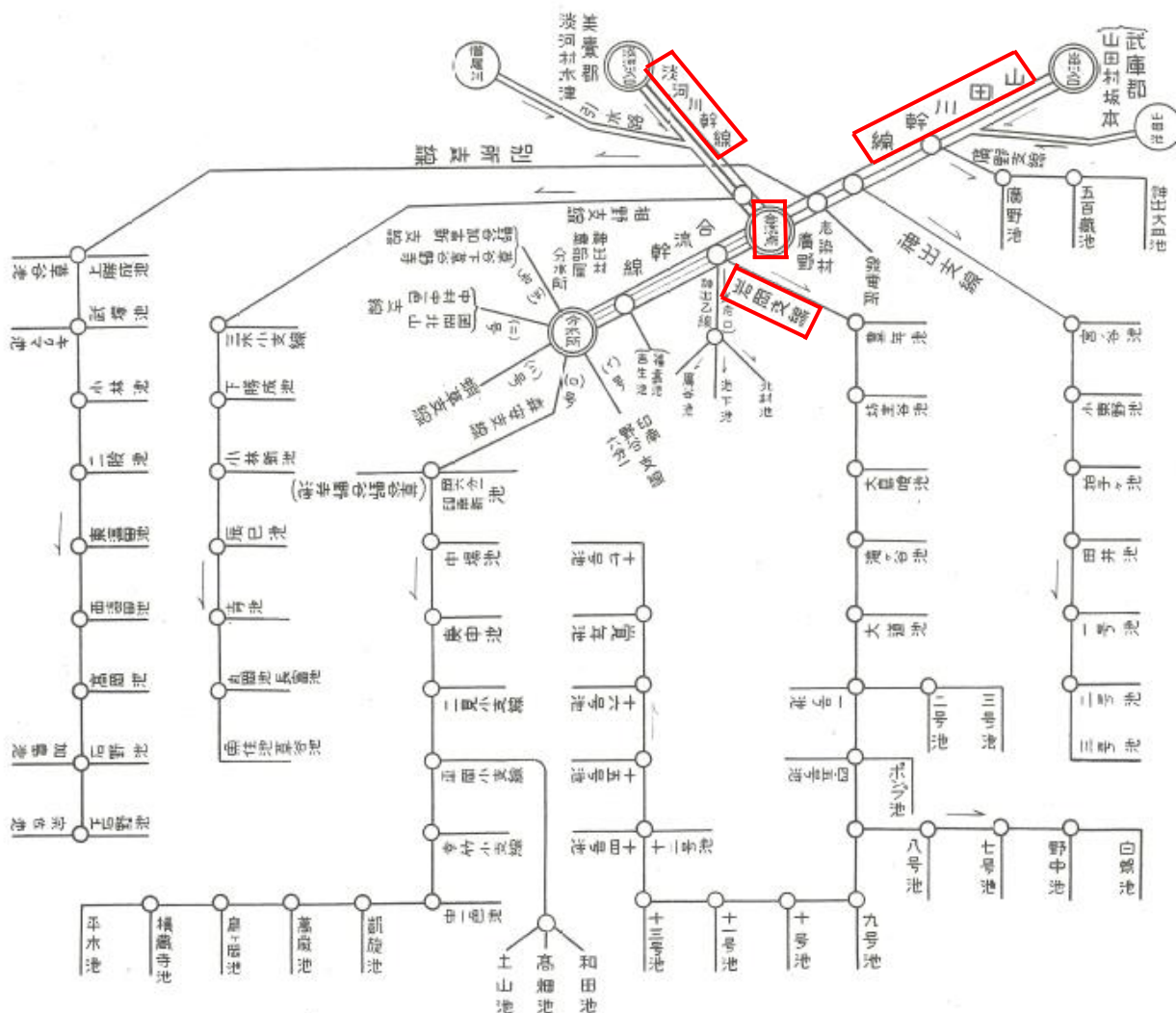


図7 淡山疏水分水一覽図（1940（昭和15）年）

5. サイフォンと水力発電について

山田川疏水の開発では、当時のさまざまな最先端の技術が用いられています。ここではサイフォンと水力発電の2つを紹介しましょう。

水は高いところから低いところに向かって流れます。ところが淡河川疏水や山田川疏水の水路の一部では、水が低いところから高いところに向かって流れる箇所があります。その一つが近代化産業遺産などに登録されている御坂サイフォンです（図6）。御坂サイフォンでは、いったん50メートルを超える坂を下り、御坂のめがね橋で志梁川を越え、そして今度は、再び50メートルを超える坂を水が一気に駆け上ります。これは連結管の原理を用いた装置です。給油ポンプなどで用いられているサイフォンの原理の形態とは逆の形になるので、逆サイフォンと呼ばれています。一般には、「逆」がとれて単にサイフォンと呼ぶことも多いです。この連結管の原理を用いた施設は日本でも古くからあり、「伏越」と呼ばれています。江戸時代につくられた辰巳用水（金沢）や新井用水（播磨町）にもこの技術が用いられています。ただし、それらは送る水の量も少なく管の素材も木や石が用いられていました。御坂サイフォンでは内径が81センチ、86センチ、91センチ3種類の軟鉄管をイギリスから輸入して設置されました。山田川疏水でも2箇所です。サイフォンが設置され、そこでは国産の鉄管が用いられました（写真1）。その後、二代目は鉄筋コンクリート製のヒューム管、三代目はダクタイル鋳鉄管が用いられています。

山田川疏水の岩岡支線にはポンプ池（6号池）があります。ここでは、疏水の水をポンプでポンプアップしてため池に貯めています。その動力はどうしたのでしょうか？実は、広野と岩岡の2か所に水力発電所が設置されたのです。広野発電所では山田川疏水の約10メートル下を流れる淡河川疏水に水を落とし、岩岡発電所では淡河川疏水と山田川疏水が合流した後の合流幹線から20番池に水を落とし、それぞれの落差を利用して水力発電がなされました。稲美町にあるTT（淡山・東播用水）博物館には、サイフォンの実物や当時測量に使われたセオドライトなどの測量機器、写真2のような図面などが保管され、その一部は展示されています。

ぜひ一度、TT博物館に足を運んでみてください。



写真1 岩岡第一サイフォン

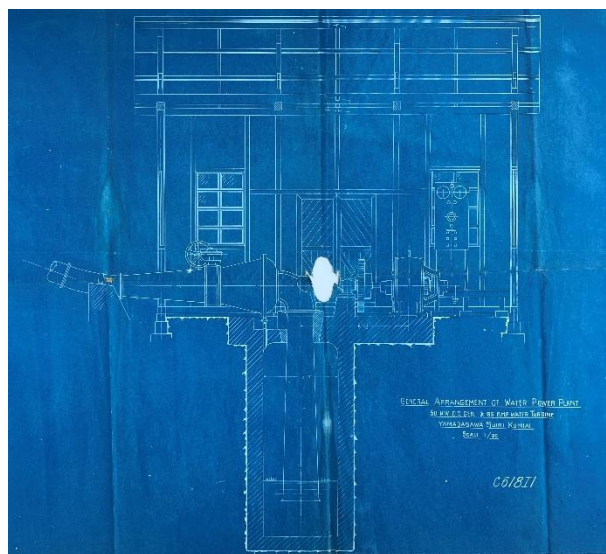


写真2 広野水力発電機設計図



TT博物館のご案内

(<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kok09/>

[event/documents/tanzan-pamph2019.pdf](https://web.pref.hyogo.lg.jp/kok09/event/documents/tanzan-pamph2019.pdf))

6. ため池の機能と17号池の未来について

いなみ野台地は雨が少なく、また近くを流れる水量が豊富な加古川などの大きな河川より高台にあり、その水不足や水供給の不安定さを補うために多くのため池が^{おきな}つくられてきました。

ため池の主な目的はお米をつくるための農業用水を供給することにあります。しかし、ため池にはそれ以外にも様々な機能を有しています。ため池に貯められた水は、かつて飲み水や風呂、洗濯などの生活用水として利用されていました。それらは、今、水道の水が使われています。しかし、これらの利用ができないわけではありません。地震などの災害時に水道の供給が止まることもあります。その際に、ため池の水は重要な生活用水としての役割を果たすことができるのです。また防火用水としても、地域の人々の暮らしにおいて重要な役割を果たしています。

これらため池に貯められた水を利用する「用水供給機能」だけでなく、「空間・文化機能」の機能も有しています(図8)。17号池は街に近く疏水の一番下流にあることから、豪雨時には一時的に水を貯めて洪水の発生を防ぐ洪水調節や、本書『17号池物語』のように教育・学習の素材としての活用、そしてため池は地域性や地域の歴史を^{ものがた}物語る文化遺産としての機能があります。

このようなため池に対して、単に農業用水のための水利施設という位置づけだけでなく、それ以外の多面的な機能にも目を向けていくことが大切です。そこで、ため池の定義として「地域の人々が、ある目的のためにつくった人工の貯水施設」を提案したいと思います。ここでのポイントは3つあります。一つ目は、「ある目的」とすることで、農業用水のためだけに限定しないで、ため池の多面的な機能を含めた認識とすることです。二つ目に「人工の貯水施設」であるという認識です。これはため池が、人によってつくられ、そして維持管理されることによって、その目的なり機能が維持される施設であるということを示しています。そして3つ目に「地域の人々」という点です。ため池をつくったり、維持管理したり、そしてその多様な機能をどのように利用するか、それを決める主体は地域の人々であるという認識です。今後は、これら認識を意識して、まちづくりにおける17号池の在り方^{けんとう}を検討していただければと思います。

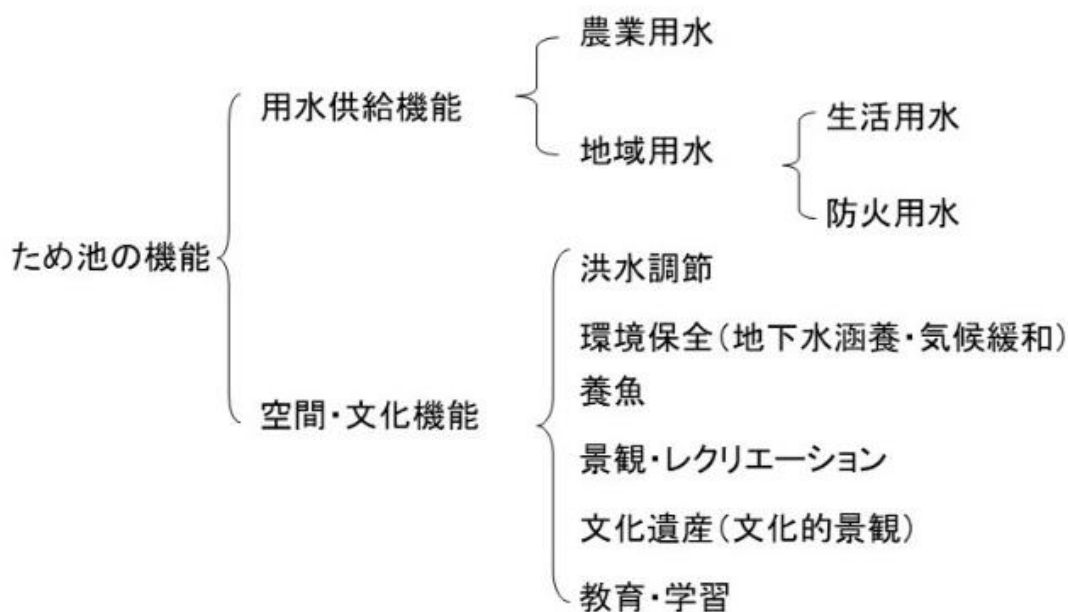


図8 ため池の機能

さて、2022年に17号池は、新しく生まれ変わります。17号池が生まれてから、ほぼ100年になります。かつて17号池でかんがいする田んぼの面積は30ヘクタールを超えていました。その後、17号池周辺の都市化が進み、しだいに減少し、今では7ヘクタールほどになりました。そして、『17号池物語』にもありましたように、いくつかのため池は宅地や学校用地へと姿を変えています（6ページ）。

そこで利水及び防災上必要となる最低限の水量を確保した上で、ため池の規模を縮小し、市民の健康増進やスポーツ及び自然に楽しめる環境を提供する運動公園『みんなにやさしい運動公園』として整備がなされることになりました。17号池もその公園の一部となり、これからは農業用水とともに、親水空間として「空間・文化機能」の側面がより一層重要となります。

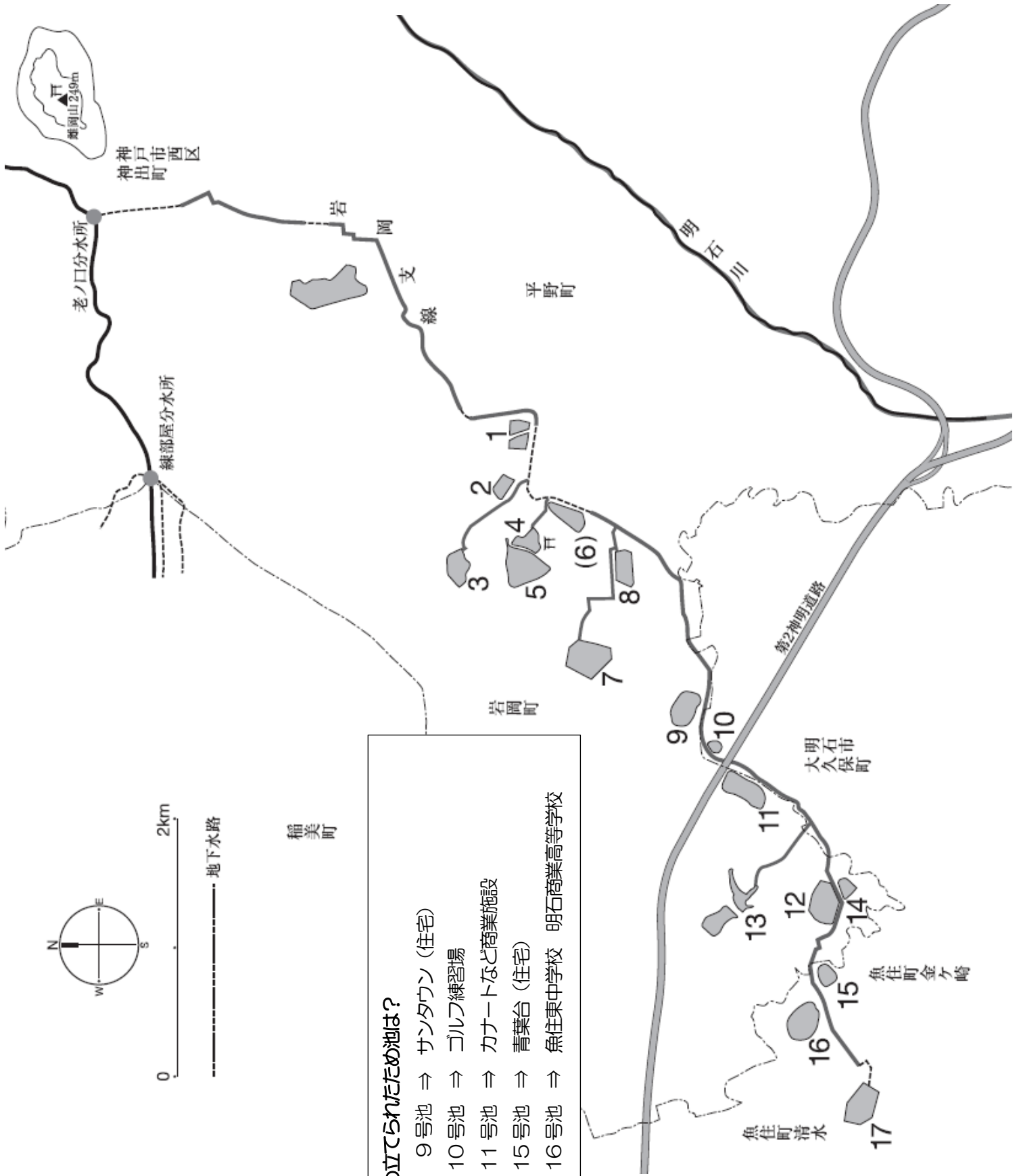
ため池は「地域の鏡^{かがみ}」といわれます。あるため池では汚水が流入して水質が悪化し、ゴミが投棄されペットボトルなどが浮かび、土手には雑草が広がっています。またため池の周囲をフェンスで囲い、ため池と地域が分断^{ぶんだん}されているようなため池もあります。時代とともに17号池に求められる機能は変わっていくと思います。今後も地域の人々によって、美しく維持管理され、愛され、親しまれる17号池であり続けることを願っています。

完成予想図



図9 17号池整備計画図

山田川疏水・岩岡支線の全容



埋め立てられたため油は？

- 9号池 ⇒ サンタウン (住宅)
- 10号池 ⇒ ゴルフ練習場
- 11号池 ⇒ カナートなど商業施設
- 15号池 ⇒ 青葉台 (住宅)
- 16号池 ⇒ 魚住東中学校 明石商業高等学校

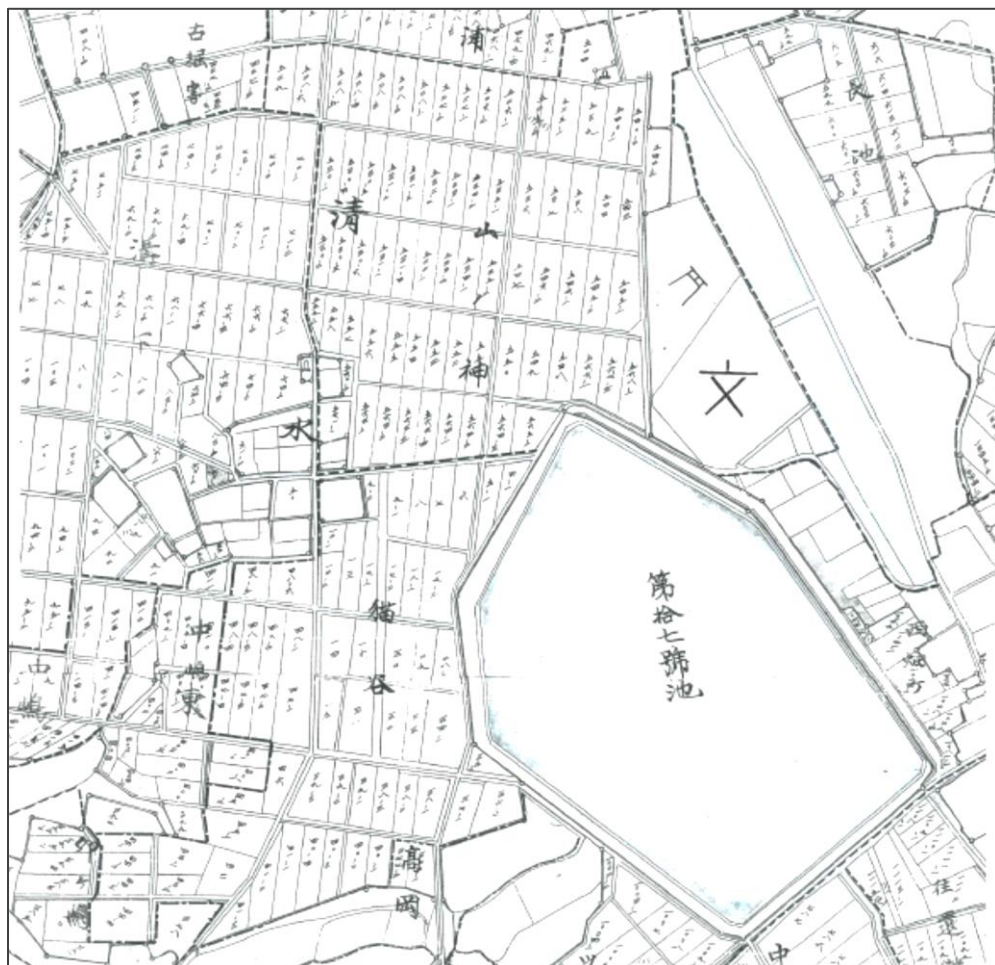
淡河川・山田川疏水の年表と魚住小学校のあゆみ

淡河川・山田川疏水の年表

魚住小学校のあゆみ

1771 (明和 8) 年	神出の人が山田川から水を引くことを考え、測量する	
1878 (明治 11) 年	疏水を引くことを県に願い出て県が測量する。	浜西簡易小学校が現在地に 設立 (明治 10 年)
1883 (明治 16) 年	国が水路をつくるための調査	
1886 (明治 19) 年	疏水のための水利組合が設立 国が県に工事のお金を貸した	浜西尋常高等小学校に 改称 (明治 34 年)
1891 (明治 24) 年	淡河川疏水が完成	樟樹 2 本を寄贈される (明治 36 年)
1907 (明治 40) 年	山田川疏水の工事を決めた	魚住尋常高等小学校に
1911 (明治 44) 年	山田川疏水の工事が始まった	改称 (明治 39 年)
1915 (大正 4) 年	山田川疏水の幹線水路が完成	魚住第一尋常高等小学校に 改称 (大正 5 年)
1919 (大正 8) 年	山田川疏水の支線やため池の 全工事が完成した	魚住国民学校に 改称 (昭和 16 年)
		明石市立魚住小学校に なる (昭和 26 年)
1953 (昭和 28) 年	2 代目の御坂サイフォンを設置	
1970 (昭和 45) 年	国営東播用水事業が始まった	
1988 (昭和 63) 年	淡河川山田川疏水百周年記念事業 呑吐ダムが完成した	
1991 (平成 3) 年	3 代目の御坂サイフォンを設置	明石市立魚住小学校
1993 (平成 5) 年	国営東播用水事業が終わった	開校百周年 (平成 12 年)
2003 (平成 15) 年	「稲美のため池群」が文化庁の 文化的景観の重要地域に選定	
2006 (平成 18) 年	淡河川山田川疏水と東播用水が 農林水産省の疏水百選」に認定	
2008 (平成 20) 年	淡河川山田川疏水が経済産業省の 「近代化産業遺産」に認定	
2014 (平成 26) 年	淡河川山田川疏水が 「世界かんがい施設遺産」に登録	

17号池の変遷



大正4年(1915年)

17号池完成時点での地図

文は魚住小学校

学校正門前の道や国道2号線も

まだありません



平成24年(2012年)

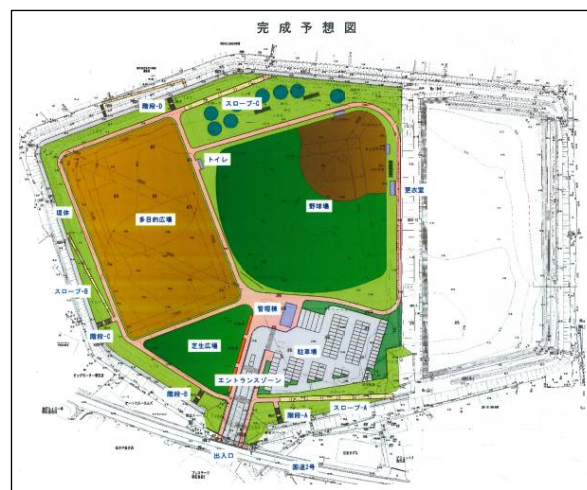
満々と水をたたえた17号池

池の奥に魚住小学校

池の手前、すく横に2号線が通っています

令和4年(2022年) 完成予定

ため池部分は3分の1を残し、残りは緑のグラウンドやみんなの広場に生まれ変わります
池の奥に魚住小学校の校庭、手前のすく横に2号線が通っています



文	森本 眞一（明石溜池研究会）
さし絵	河合 健次（明石市立和坂小学校）
17号池の歴史と未来	南埜 猛（兵庫教育大学大学院教授）
編集	魚住まちづくり協議会
企画監修	兵庫県東播磨県民局 兵庫県加古川流域土地改良事務所
協賛	第17号池コーポレーション 明石市緑化公園課 明石市教育委員会 明石市立魚住小学校 明石市立高丘西小学校 東播用水土地改良区（淡山疏水・東播用水 博物館）

17号池の教育実践及び主な参考資料

安森 建夫	「17号池の秘密」探検隊 総合学習「くすのき」	魚住小学校 5年	2002年
吉田 律子	守ろう 17号池（劇）	魚住小学校 4年	2010年
大谷 典之	地理的分野「身近な地域調査」 地形図を使って魚住地域の変貌 ～17号池に焦点を当てて～	魚住東中学校 1年	2013年
「明石のため池」 「いなみ野台地を潤す“水的路”」 —淡河川・山田川疏水開発の軌跡をたどる—	南埜猛・森本眞一・片山俊夫	明石市教育委員会	2008年
	いなみ野ため池ミュージアム運営協議会		2012年
「水をもとめて」	兵庫県東播磨県民局		2010年
「遠い水的路」	加古川流域土地改良事務所		2017年
「わたしたちの明石」	明石市教育委員会		2016年
「新・兵庫を飛ぶ」	神戸新聞総合出版センター		1999年

17号池物語

初版 2020（令和2年）年3月31日

発行 魚住まちづくり協議会

明石市魚住町清水570（魚住小コミセン内）

印刷 ラクスル

製本 ラクスル



くすのんの生い立ち

2018年度（平成30年度）に魚住のマスコットキャラクターを決めるため地域住民や幼稚園・小学校の子どもたちを対象にマスコットキャラクターを公募しました。数多くの中からみんなに親しまれるキャラクターとして当時3年生の東地梨花さんの作品が選ばれ、名前もくすのんと命名されました。これからも魚住のマスコットキャラクターとしてどんどん親しまれていくことでしょう。